

恋 人 が で き る ま で 。



blue

監督：安藤 穎 原作：魚喃キリコ（マガジンハウス刊） 第24回モスクワ国際映画祭最優秀女優賞（市川実日子）受賞

出演：市川実日子 小西真奈美 今宿麻美 仲村綾乃 高岡蒼佑 村上 淳 河原崎建三

脚本：本潤有香 プロデューサー：宮崎 大 音楽：大友良英 撮影：鈴木一博 スチール：川内倫子 録音：鈴木昭彦 美術：鈴村鏡子 編集：富田伸子 助監督：久万真路 製作担当：毛利達也  
製作：三宅澄二、岡田真澄、石川富康 エグゼクティブ・プロデューサー：横濱豊行 製作：blue PRODUCTION PARTNERSHIP ミコト／広美／衛星劇場 製作プロダクション：ミコト 協力：高岡フィルムコミッション にいがた映画塾  
「blue」川内倫子写真集：ブチグラバプリッシング 「blue」original soundtrack：WEATHER015/HEADZ4 配給：ミコット＋ストーラーナー 2001/35mm／ヴィスタサイズ／116min © 魚喃キリコ／blue PRODUCTION PARTNERSHIP 2001

# 恋人ができるまで。

友達なんだけど、憧れてしまう。

でもわたしが思っていたよりも、あなたも少しだけ弱いんだって気がついた。

桐島と遠藤、ふたりの女の子が過ごす放課後。

恋人ができるまでの時間。

教室の中。高3になって進路という言葉を聞かされても、やりたいことなんてそんなに簡単に決められない。たくさんのクラスメートが同じ制服を着て黒板に向かう。だけどカヤ子には遠藤だけが特別に見えた。どこか大人っぽいけど派手なわけでもなく、物静かにうつむいている、ただそれだけ。でもカヤ子の視線はいつも遠藤のところで止まってしまうのだ。彼女の好きな曲、読んでいる本、彼女が思っていること、もっといろんなことが知りたかった。わたしなんて全然幼いし追いつけないと分かってるけど、できることならわたし、遠藤になりたい。高校の頃の景色は決して甘いだけのものではなく、時には思い出したくないようなこともあるでしょう。明日もまた、今日と同じ日が続いていくと思っていただけど、いつかはそこから出していく時がやってきます。憧れていた人もまた、別の悩みを抱えていました。そして、誰かのアドバイスが欲しくなった時、本当に答えを出してくれるのは、やっぱりたくさんの放課後をすごしてきたこれまでの自分だったりなのです。この映画には、あなた自身に重なる人がきっと見つかるはずです。



市川実日子の柔らかさ、小西真奈美の透明感、今宿麻美の意外な表情。

映画、音楽、ファッション、さまざまなジャンルで活躍する出演者が織りなす青色の瞬間。制服姿の少女たちの、奔放で傷付きやすく無垢だからこそ切ない感情がまじりあう。

クラスメートに恋心に似た憧れを抱く毎日の中で本当の自分を探そうとする桐島カヤ子を演じるのは、その場の雰囲気に柔らかな魔法をかける市川実日子。また、桐島が目で追う同級生遠藤雅美には、映画に、TVドラマに、舞台にと若手演技派として飛躍を続ける小西真奈美。遠藤が忘れられずにいる年上の恋人には、「pierce/LOVE&HATE」「dead BEAT」と安藤作品の常連であり、監督が最も信頼を寄せる村上淳。それぞれの想いや過去を知る遠藤の親友・中野に、「おしゃれ番長」

で知られる今宿麻美。その他、仲村綾乃(「tokyo.sora」)、高岡蒼佑(「青い春」)ら、注目の若手俳優が参加。

誰もが経験する学生時代の放課後。それは過ぎてしまったら二度と訪れることがない大切な時間なのかもしれません。あなたの放課後に刻まれるのは、どんな記憶なのでしょうか…?

魚喃キリコ「blue」の繊細な作品世界を新鋭・安藤尋監督が初映画化!

写真家・川内倫子が切り取る瞬間、音楽家・大友良英が奏でる音が、  
揺れる10代の背中を優しく押すように響きはじめる。

日常に流されてしまうようなふとした瞬間をすくい上げ、その繊細で鋭い感性に多くの読者が魅了され続けている魚喃キリコによる同名原作コミック「blue」。安藤尋監督は10代の不安な気持ちを知りながらも、やがては自分の足で立ってもらいたいという厳しさと優しさを込めて、5年間あたため続けてきた物語を映像化しました。もっとも大切な作品として製作段階から参加した原作者・魚喃キリコが、強く感情を揺さぶられた本調有香の脚本、絵画を描くような鉢木一博のカメラ、そして、世界的ターンテーブル奏者でもある大友良英の音楽が、栗コーダーカルテットによる誰もが手にした柔らかなくて笛に重なり、感情の揺れを織り込んでいくかのように流れ、映像だけでなく音もまた色を持ちはじめる。また、2001年木村伊兵衛賞を受賞した写真家・川内倫子が映画の撮影現場に初挑戦し、もうひとつの瞬間に切り取りました。多くの魅力的なスタッフが新鋭・安藤尋の映像へコラボレートし、繊細で傷付きやすい「blue」の世界を押し抜け、紡ぎあげていくのです。



みんなの中にそれぞれの「blue」が  
大切に存在していることが、  
あったかくてとても、嬉しいです。

魚喃キリコ

『blue』川内倫子写真集

2003年1月末 発売予定  
¥2,800(+tax) 発行:ブチグランパリッシング  
TEL.03-5459-0501



『blue』original soundtrack  
-Otomo Yoshihide-

2003年2月16日 発売予定  
¥2,500(tax include) WEATHER 015 / HEADZ 4  
TEL.03-3770-5721



『blue』T-shirt  
(by Kiriko Nananan+Spiegel)

¥5,800(+tax)  
TEL.03-5413-6369  
スピーゲル



<http://www.blue-movie.jp>

## 5月10日(土)よりロードショー!

特別鑑賞券¥1,500(税込)発売中!(当日一般¥1,800の処)

劇場窓口でお買い求めの方に、先着限定で  
オリジナルポストカードをプレゼント!



梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト3F  
**シネ・リーブル梅田**  
CINE LIBRE UMEDA  
06(6440)5930

連日 2:30 / 4:45 / 7:00

[各回入替制]

大丸東側 神戸朝日ビルB1F  
**シネ・リーブル神戸**  
CINE LIBRE KOBE  
078(334)2126

上映日・上映時間は劇場へお問合せ下さい。

[www.nikkatsu.com](http://www.nikkatsu.com)